

日本人の気質について

高2



リサーチクエスト

なぜ日本人は人に合わせたがる傾向にあるのか



このリサーチクエストにしました理由

Q乗客を海に飛び込ませようとしています。さて、船長が各国の人を飛び込ませるために放った言葉とは何でしょう？

- ・アメリカ人に対して・・・「飛び込めばヒーローですよ」
- ・ロシア人に対して・・・「海にウォッカのビンが流れていますよ」
- ・フランス人に対して・・・「決して海には飛び込まないでください」
- ・日本人に対して・・・「みなさんはもう飛び込みましたよ」



→共感し、私個人ではなく日本人全体の共通理解ならばなぜそうなるのか？

はじめに

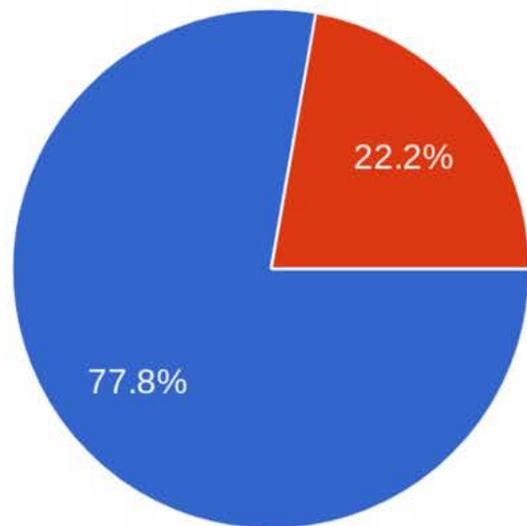
本当に日本人は周りに合わせたがるのか



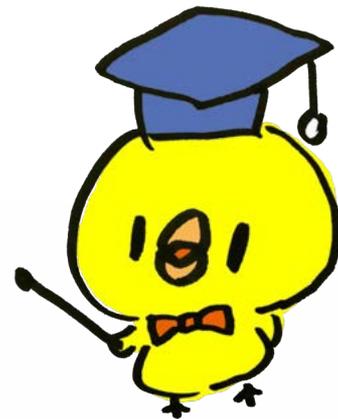
アンケートの結果

自分は人に合わせやすい人だと思いますか（意見や行動など）

54件の回答



- はい
- いいえ



アンケートからわかったこと

→すべての人ではないが、思っている人は**とても多い**



研究方法

あ：三菱商事の方からお聞きする

い：インターネットで調べる

う：アンケート



仮説

A：日本人特有の考え方

B：いままでに経験

A：日本人特有の考え方とは

- ・ みんなと同じがいい
- ・ 目立ちたくない
- ・ 周りの人に気をつかう
- ・ 本音と建前をつかう



キーワード

”同調主義”

- 集団行動をするためには「協力」が不可欠
- 異を唱えては「協力」がなりたたない
- 集団に「同調」することが必要

工藤さんと安藤さんのお話

大学で大勢の前で質問はあるかときく

海外：ほぼ全員が手をあげる、質問でなくても自己主張でも言う

日本：ほとんどの人が手を上げない、授業が終わった瞬間みんな並ぶ

→同調圧力が強い？



日本人がみんなと一緒に好きというのは大誤解！？

質問①「日本人は集団主義だと思いますか？個人主義だと思いますか？」

質問②「あなた自身は集団主義ですか？個人主義ですか？」

(2020年荒川和久調査。一都三県20-50代未既婚男女n629)

→ 「日本人は、個人主義者による集団主義」



日本は諸外国に比べ同調圧力が強いという主張は調査によって裏付けられているのか？

日本、アメリカ、中国、韓国4カ国の高校生それぞれ700人～1600人程度を対象

Q. 「友達に合わせていないと心配になる」 → 同調を問う

A. 「そうだ」と「まあそうだ」

日本は同調圧力が強いといわれている

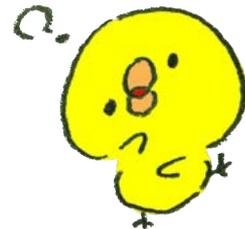
→ 突出して多くなるはず

⇔ はるかに低い結果

→ **確かな根拠はない**ようである

	全体	男子	女子
日本	35.5	36.3	34.8
米国	55.4	49.5	60.9
中国	31.9	30.5	33.3
韓国	25.1	26.5	23.6

ではなんで日本人は集団主義だというイメージがある??



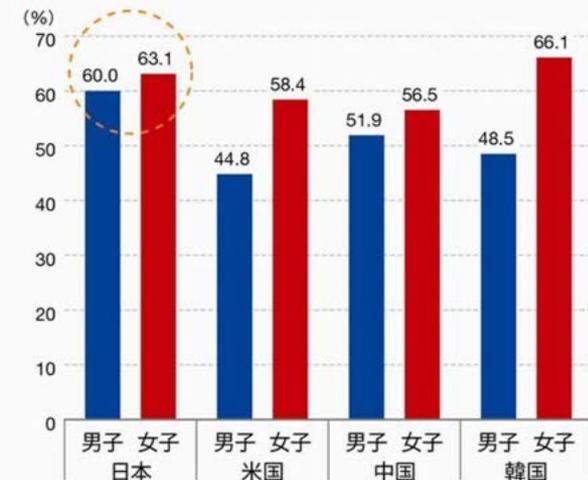
「同調行動」→自分の行動がどううつるか気になる日本人

4カ国中男女計だと日本人が最も高い

→他人の目は評価、自分の損得に直結

⇒「自分ひとりだけ異質な存在とみなされると自分にとって得にならない」

■ 友だちが私をどう思っているか気になる



(出所) 平成30年国立青少年教育振興機構「高校生の心と体の健康に関する意識調査—日本・米国・中国・韓国の比較」より荒川和久作成

結論

日本人に「人に合わせたがる」という意識は存在しているが、他人の目を過剰に気にする日本人の気質による結果だった

「好んで」しているわけではなく、自分にメリットがあるという損得感情で行っている



仮説は正しかったか

仮説①「日本人の**気質**によるもの」という仮説は正しかった

仮説②「過去の経験が」という仮説はまちがっていた



研究結果からの考察

仮説はあったがすべての人が損得感情で人に合わせているとはやはりいえない、人間全員に調査するのは不可能だから全員そうだとはいいきれない

最初私も人に合わせやすい人だと思って研究を始めたが、確かに「人に合わせたい」という感情より「他人に悪く思われたくない」「悪目立ちしたくない」という感情の方が大きい

この研究をとおし結局何がしたいか、何をつたえたいか

- ・ 合わせることは悪いことではない
- ・ 他者に合わせすぎなくていい
- ・ みんな同じように周りの目を気にしていて同じような悩みを持っているからひとりで抱え込まず、うちあけるべき



参考文献

- ・ 国立青少年教育振興機構2018『高校生の心と体の健康に関する意識調査報告書－日本・米国・中国・韓国の比較－』
- ・ 鴻上尚史・佐藤直樹2020『同調圧力－日本社会はなぜ息苦しいのか－』講談社現代新書
- ・ 望月衣塑子・前川喜平・マーティン・ファクラー2019『同調圧力』角川新書
- ・ 太田肇2021『同調圧力の正体』PHP新書
- ・ 高野陽太郎2019『日本人論の危険なあやまち』ディスカヴァー携書